

令和4年度 第2回京都府立図書館協議会 議事要旨

1 開催日時

令和5年3月14日（金）午前10時から12時まで

2 場所

京都府立図書館（京都市左京区岡崎成勝寺町）

3 出席者

原田隆史委員（会長）、明致親吾委員、桂まに子委員、木下正広委員、潮江宏三委員、永田紅委員、真壁似奈委員、松下亜樹子委員

4 会議の内容

- (1) 令和4年度の取組状況について
- (2) 令和5年度の事業計画について
- (3) その他

5 協議事項

- (1) 令和4年度の取組状況について
 - 事務局から資料に基づき説明
 - 委員意見
 - ・ 障害者サービスとして zoom による対面朗読の利用が増加している理由は何か。
 - ▶ コロナ対策として令和4年度から実施したサービスであるが、今後、対面・オンラインどちらでも対応していく。
 - ・ K-Libnet システムの利便性と向上を図るため、大学・企業等との共同研究の取組を推進するとあるが、進展が遅れているのではないか。
 - ▶ 相手館とできることを相談しつつ調整しているが、時間がかかっているのが現状。
 - ・ 学校支援の一環として調べ学習や見学を、相手方の意向に沿って受け入れたとあるが、具体的にはどういった内容か。
 - ▶ 概要説明のみ、見学のみ、地域資料が見たい等、事前に相手の要望を伺い対応している。
 - ・ 文化庁京都移転に伴い、他機関との連携事業を強化する取組は検討しているか。
 - ・ 研修内容については評価が高いがどういった取組をされたのか。
 - ・ 学校支援セットの内容に学校からのニーズを取り入れたとあるが、新たなテーマは、どのような経緯で採用されたのか。
 - ▶ デイバートに関する授業があることから対応した。
 - ・ 収集した資料は適切に管理し、必要に応じて修繕を行ってほしい。特に古書は貴重であり、より気を使って管理してほしい。美術館や博物館同様温度湿度管理に工夫してほしい。必要に応じてレプリカの作成を検討してほしい。
 - ・ 市町村図書館を窓口とした遠隔地返却の検討・進捗状況はどうか。
 - ▶ 具体的な課題について館内で検討中であり、市町村図書館とも意見調整中である。
 - ・ 府立学校への電子書籍専用カード番号を発行しているが、生徒に直接届く良い取り組みであり、活用してもらうことが大切である。学生時代に知っておきたかった。

(2) 令和5年度の事業計画について

- 事務局から概要について資料に基づき説明
- 委員意見

- ・ 推進や充実といった曖昧な表現が多く見受けられる。可能な範囲で数値化できないか。また、実現とあるが、具体的に何を行うのかの目標を設定することで数値化して評価できるのではないか。数値化が望ましくない場合もあるが、あいまいな表現はなるべく避け、わかりやすい評価指標とするべき。
- ・ 動画を使った展示紹介やアーカイブの検討とあるが、独自の取組か。他館で事例等があるのか。
 - ▶ 既に開催した展示をプロに撮影していただいた経緯があり、今年度、その動画を活用し、その過程において事例を作る予定。
- ・ レファレンスデータの公開や電子書籍利用促進等、ターゲットを絞って検討しておくことは重要である。
- ・ ターゲットが合致しているか確認した上で、電子書籍のID発行と所蔵図書ID発行に関連性を持たすことや目標と評価はセットで考えること等を意識すると、事業により厚みが出るのではないか。
- ・ 書庫不足の問題について文化庁に助けを求めることはできないのか。また、対応策は他にはないのか。先送りにせず現実問題として捉えるべきではないか。
 - ▶ どの図書館も課題として捉えている。社会教育施設への補助金はなく、文化庁にも助けは求められない。今あるものを持ち続けるのか、歴彩館等と分担するのか等は今後考えていかなければいけない問題。最先端の図書館からアイデアを吸収することも大切であると考えている。
- ・ 書庫不足問題として、デジタル化して残していく手段はあるが、製本技術等の保管等の側面では本体を残すことも重要である。また、本体でしか対応できないこともある。保存するための説明力も必要であり、今後検討してほしい。

(3) まとめと2年間の感想

- ・ 計画当初から関わっているが、内容が明確になり様々なことが前進した。見える化できたことは大きなことである。
- ・ 大変な現状であることを知るいい機会になった。
- ・ 大学生の間に委員を務めることは大変貴重な機会であった。実際に図書館がやっていることを広めることが今後の見える化に繋がっていく。もっと府民に知ってもらいたい。
- ・ 紙媒体である新聞記事をデジタル化することで、様々な形で発信が可能となっている。図書館として、紙の図書を残す意義も発信し伝えていくことに意味があると思う。図書館の担う役割は重要である。
- ・ 目標に向かう途中で発見したことも共有していく価値があると思う。
- ・ “図書館を知ってもらう”が今後の共通キーワードではないかと思う。ナレッジベースがさらに活用していければ良いと思う。
- ・ 住民に近い市町図書館とは違う、府立図書館独自の立場で計画が進めば良いと思う。ITや技術革新は凄まじく、対応・共存すべきことと、独自の役割を担うべきことがある。自分自身も技術の進歩に追いついていきたい。
- ・ どれだけプラスαできるか、それをアピールできるかが重要であると思う。効果は少なくとも話題性としてアピールできることがあるのではないか。また、タイム感を持つことも大切である。